

2018年10月21日

福音書からのメッセージ

人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」

(マルコによる福音書10章45節)

今日の箇所には、二人の弟子が登場します。ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネです。二人は早くから弟子になった、いわば古株です。この二人はペトロと共に、イエス様に特別なところに連れて行かれることもありました。

さて二人はイエス様に、「わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください」と願います。「あなたの右と左に」、わたしはこの言葉を聞いて、ひな飾りを思い出しました。それよりもピラミッドのような形でしょうか。上の方の人数が少なく、下に行くほどたくさんの人がある。上の方はきれいに着飾っているけれども、下の人たちは普段着のような恰好、もっと下に行くとボロボロの服を着ている。それは、わたしたちの社会と同じなのかもしれません。

その情景を思い浮かべながら、先ほどのヤコブとヨハネの言葉を思い返してみたいと思います。「あなたの右と左に」、そういう彼らの頭には、頂点にイエス様がいる景色が浮かんでいたことでしょうか。しかしイエス様は「あなたたちの間ではそうであってはならない」と言われるのです。

あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。つまり、一番底辺で、みんなを支え、そこにいる人たちと共に生きていきなさいということです。ピラミッドの頂上を目指すのではなく一番下、そこには社会から疎外され、生きていくのも大変で、病気に悩み、今、神さまから見捨てられていると思ってい



る人がいるかもしれない。あなたたちはそこにいるようにと言われるのです。

聖書はわたしたちに、何度も同じようなことを書きます。

「仕えよ」、「しもべになれ」。なぜイエス様は何度も何度も、同じような話を繰り返すのか。答えは簡単です。わたしたちが

そうならないからです。

今日の場面はイエス様の三度目の受難予告の直後でした。にもかかわらず、弟子の中でも一番イエス様に近い場所にいた人たちが、まだ理解できていない。何度イエス様が語っても、仕える者となることができないのです。

わたしたちも同じです。「そうだ、仕えよう」、「みんなのしもべとして働くんだ」。できたらいいですね。でもどうですか。わたしたちだって欲がある。見栄もある。立派になりたい。褒められたい。とてもではないが、縁の下の方の力持ちのように、自分を捨て、イエス様のように歩んではいけない。自分を振り返るたびに、悲しいけれどもそうならない自分に気づかされる。だから神さまの憐れみが必要なのです。

わたしたちはとても弱い。思いと言葉と行いによって、すぐに罪を犯してしまう。だからこそイエス様は十字架でわたしたちの代わりに血を流されたのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>